

New わかものがかり

2012年
7月3日

11号

広島自治労連青年部 発行
広島県広島市中区大手町4丁目
2-27 中央レジデンスビル 405
TEL 082-243-9240
FAX 082-243-9241

Blog も
あるよ☆→



心から心へ 熱い思い伝えあう



第3回
青年自治研
集会在滋賀

6月16～17日、「第3回青年自治研集会 in 滋賀～つなげよう！暮らしを守る自治体魂！～」が開催され、全国から227名、広島から4名が参加しました。

自治体のあるべき姿…5つの柱

記念講演では、神戸大学名誉教授の二宮氏が、「自治体・公務公共職場で働く職員は、専門分野の熟練と地域全体を見通す能力が必要だ。全体では、自治体民主主義を再構築する必要がある。橋下・大阪維新の会がめざす独裁のような形ではなく、『住民自治の結集』『首長を選ぶ代表制民主主義』『議会制民主主義』『行政民主主義』『労働組合民主主義』の5つが柱。すべての権力から独立している労働組合でがんばるみなさんの活動に期待する」と話されました。



職種関係なく感心を持とう

分科会は、10の分野に分かれて行われました。生活保護のケースワーカーが、不正受給を防ぐことに支点が置かれるあまり、保護の必要な人でも厳しい目で見えてしまうことへの苦悩を語ったのを聞いた参加者は、「保護が必要な人に手を差し伸べるべきだ。ただ、人員増なくしてそれはできなさそうだ」と語りました。「子ども子育て新システム」の



学習をしてその内容に危機感を覚えた参加者は、「この動きを食い止めなくては」と感じると同時に、保育にかかわらない青年には知識も意識もないことも知り、「少しでも広く知ってもらうことの大切さ、広く物事に関心を持つことの大切さを感じた」と語りました。夕食交流会でも「それぞれが悩みを打ち明けたり、意見交換をしたりして、親睦を大いに広げられました」との感想が寄せられています。

仲間と語り合うことの大切さ

自分の仕事について真摯に語り学べることや、他の人の仕事について知ること、青年自身にとっても、労働組合の運動にとっても、とても大事だとわかった自治研集会。広島自治労連青年部ではこの経験を生かし、7月に予定しているサマーフェスタでも、仕事について語り合える「しゃべり場」の時間を設けることにしています。

第3回 青年自治研集会 つなげよう！暮らしを守る自治体魂！ in 滋賀 2012年6月16日～17日



参加者が輝く自治研に！

伊藤亜也子 広島自治労連青年部部長
(広島市社会福祉事業団職労・保育士)



今回初参加の広島メンバーを心配していましたが、はじめは緊張した表情をしていた彼らが、現地で仲間と語りあい、食事をして交流し、学ぶ中で、表情がすごくゆるやかになっていました。そして積極的に交流したり、仲間にギモンをぶつけたりして、私がパワーをもらうことができました。この“つながり”を引き続き深めていきたいです。

■分科会について（第3分科会・保育）

初めて分科会の運営を担当し、事前準備や自主学習を仕事と一緒にしていくことがとても大変でした。“良い分科会に”とプレッシャーをすごく感じたけれど、やってよかったと思いました。

生活保護の問題考えた

三宅一生 (同上・障害者施設指導員)

講演は、講師の先生の公務公共の仕事に対する熱い姿勢が印象的でした。自治体として必要な様々な民主主義の形に関する話では、深い感銘を受けながら聞きました。

2日間よく学び、よく交流して、大いに充実した自治研でした。



■分科会について（第1・社会福祉）

ケースワーカーの参加が多く、生活保護に関する話を中心でした。印象的だったのは、どの方も多くのケースを抱えて奮闘していること、仕事のあり方についての疑問等が上がったことです。不正受給に関する問題がクローズアップされ、いかに不正を防ぐかに支点が置かれるあまり、保護を受ける人に対して厳しい見方をしてしまうという意見もあり、自分の仕事のあり方に日々自問自答されていると感じました。

私は不正を防ぐことよりも、いかに保護をすべき人に手を差し伸べるかだと思います。排除ではなく、いかに人に寄り添えるか。ただ現状は、とてもそれが出来る状況ではないとも感じました。必要な人員を増やし、必要なひとが正しく保護が受けられる状態に近づくことが大事です。

「新システム」危険！！

前田慶彦 (広島市職労・保育士)

・講演について
全国の働いている方の状況が聞けたり、テレビなどでとりあげられている内容の説明があったりと、わかりやすく話を聞くことができた。

・夕食交流会について
同じ分科会のメンバーで集まり食事をしたこともあり、共通の話題で盛り上がる事ができてよかった。役員の方々のレクやゲーム大会もあり、とても楽しい時間になった。

自治研の輪は

滋賀から全国へ

・全体を通して

想像以上の参加者と研修会の大きさと、2日間がとても充実した時間になった。男性保育士の方も多く見られて、お互いの職場の状況を話し合ったり、保育の悩みなどの意見交換ができたりと、参加してよかったと感じている。



■分科会について（第3分科会・保育）

＜子ども子育て新システムについてと、職場の意見交換の2つを主に話し合った＞

・蛭名孝宏先生の、「新システム」についての話があり、今現在「新システム」がどのような状態にあるのか、大まかな説明をしてもらった。保育がどんどん市場化されているということで、「新システム」のことをもっと知り、広めていくことで、くい止めていかなければならないと感じた。今回は撤回されたが、似たような法案がすぐに提案されるだろうとのことで、常に情勢に目を向けておこうと感じた。

・保育士や、事務の方が一緒になって、保育の話、新システムの話、事務の方から見た保育の話をした。保育にかかわっていない方の意見はとても新鮮で、園の中で行われていることや、公立と民間のことなど「知らない」というワードが強いと感じた。新システムについても同様で、ほとんどの方が「知らない」という意見だった。わからないうちに、国の方ではどんどん進んでしまう。少しでも広く知ってもらうことの大切さや、広く物事に関心を持つことの大切さを感じた。

闘う労働者にならねば！

平岡健太郎 (ひとまち労組・公民館主事)



講演会では、自治体・公務公共関係の職場で働く青年の心構え等について、神戸大学名誉教授の二宮厚美さんに講演していただき、気が引き締まる思いでした。大飯原発の再稼働や消費税の引き上げ問題等、国民生活をおびやかす、ワーキングプアをますます増加させることになる、国民無視の政治に歯止めをかけなくてはならないと思いました。公務員も労働者であり、地域住民の共通利益を提供あるいは保障していくためには、賃金の引き下げ等に対して、これからも全国の労働者と一緒に闘っていかねばならないと感じました。夕食交流会では、各都道府県の自治体労働者の方たちなどと、それぞれの悩みを打ち明けたり、意見交換をしたりして、親睦を大いに広げることができました。

■分科会について（第10分科会）

大津市の魅力などを、どのように効果的にアピールしているかについて学べると思いこの分科会に参加させてもらったが、実際は観光地巡りをしただけに終わったことが不満でした。

特に、2日目の分科会では、大津市に関する3択クイズを実施しただけで、この分科会の参加者どうしの交流はほとんどできませんでした。